

# 広報たのみ診療所

## インフルエンザ治療薬について

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



10～11月はインフルエンザが大流行でした。インフルエンザの治療薬について、少し解説したいと思います。

### 風邪薬とインフルエンザ治療薬の違いとは？

風邪薬とは、熱さまし・痛み止め・咳止めなどのことで、症状を軽くするお薬です。早く治す薬ではありません。それに対してタミフルなどのインフルエンザ治療薬は、インフルエンザの症状を早く治す薬です。しかしインフルエンザの多くは2～3日で解熱しますので、早く治すといっても半日から一日ぐらい早く治すのがせいぜいです。

### インフルエンザ治療薬はどんな人にお勧めか？逆に飲まなくても良い人は？

5歳未満の幼児、高齢者、肺・心臓などに持病のある方、妊婦さんなど症状が重くなる可能性のある方に内服を考慮します。持病のない若い方は体力があるので、薬に頼らなくても問題なく治ることがほとんどです。あと、インフルエンザは2～3日で症状が改善してしまうので、発症後2日以上たった方がのんでも効果はほとんどありません。

### どんな薬があるのか？

内服薬、吸入薬の薬があります。効果はどれも似ていて大きな差はありません。一回だけの使用で済む薬もありますが、耐性ウイルス(薬が効きにくい)の報告が多かったり、1回だけの吸入の薬だとうまく吸えなかったりするなどの問題もありますので、診療所で使う薬はオセルタミビル(タミフル)が多いです。

### 副作用は？

内服薬では 吐き気・嘔吐・腹痛・下痢がときおり(数%)みられます。吸入薬では気管支喘息や慢性の肺疾患の方では症状が悪化する場合があります。また、異常行動(例:急に走り出す、部屋から飛び出そうとするなど)が報告されていますが、インフルエンザにかかった時には、インフルエンザウイルス薬を服用していない場合でも、同様の異常行動が現れること、服用したインフルエンザウイルス薬の種類に関係なく、異常行動が現れることから、薬と異常行動との因果関係は不明とされています。

薬も効果が限られ、耐性ウイルスや副作用の問題もありますので、家族みんなでワクチンを打って予防することが最も大切だと思います。

# 地域おこし協力隊として Vol.108

## 家族と一緒に

なかしま みほ  
只見町教育振興協力隊 中島 美穂



只見町教育委員会でお世話になっている中島です。

気が付けば雪の季節になりました。今年は気温の高い日が続いたからでしょうか秋をあまり感じられなかった気がします。また、週末は雨が多く紅葉を見に出かける事ができなかったのも原因かもしれません。今やすっかり冬…。朝布団から出るのが億劫になってきています。

さて、昨年単身で只見町にやって来ましたが、今年春、夏と息子と主人が相次いで只見に移り住み3人暮らしとなりました。しばらく1人気ままに暮らしていたので、家族と暮らしていた時のペースがなかなか戻らず少し大変でした(笑)。でも、やはり家族と一緒にするのはいいなあ～としみじみ思います。特にこれから本格的な雪の季節を迎えるにあたり何かあっても家族がいるというだけで心強くなりますが、一つ課題があります。それは雪道の車の運転がほぼ経験ゼロの主人と、昨シーズンほとんど運転しなかった私が今シーズンどう切り抜けるかです。

家族にとって只見での冬は初めてです。降り積もった雪の反応を見るのが今の私の密かな楽しみです。